

令和 6 年度第 1 回長浜市総合教育会議議事要点録

I 日 時 令和6年7月30日(火曜日)15時00分～16時40分

II 場 所 長浜市役所3階 特別会議室

III 出席者 【構成員】

浅見 宣義 市長	織田 恭淳 教育長	
前田 康一 委員	松宮 誠也 委員	兼子 貴絵 委員
前川 加奈子 委員	押谷 喜美子 委員	

【事 務 局】（教育委員会事務局）

内藤教育部長、山岡教育委員会事務局次長、
高山教育委員会事務局次長、為永教育委員会事務局管理監、
藤田教育総務課長、成田教育改革推進室長、馬淵教育指導課長、
森すこやか教育推進課長、廣部教育改革推進室副参事、
稲葉幼児課長代理
(未来創造部)
中嶋未来創造部長、村崎未来創造部次長、
手崎政策デザイン課長、服部政策デザイン課長代理、
橘政策デザイン課副参事、山崎政策デザイン課係長

IV 内 容

1 開会

2 市長挨拶

挨拶 本日の意見交換のテーマは「学校・園の再編について」である。
本年4月に地域の持続可能性について分析した報告書が人口戦略会議から公表された。
本市は消滅可能性自治体には該当しなかったものの、若年女性人口が大きく減少していくことから、今後の人口動態は非常に厳しいものであると予測されている。
また、10年前は1,000人を超えていた出生数が、令和5年度では600人台と大きく減少し、少子化は本市の喫緊の課題であり市政の最大のテーマである。
子ども人口の減少が進み、今後、クラス替えができない規模の学校や、複式学級が存在する規模の学校が増えていくことになる。
就学前については、核家族化や共働き世帯の増加に伴い、低年齢から、かつ長時間の保育ニーズが高まっており、このようなニーズを反映するとともに、一定規模の集団生活の中で子どもたちを育むことが重要になっている。
こうしたことを踏まえ、本市では、学校・園の適正規模・適正配置に関する基本

方針の策定に向けて、検討委員会を立ち上げて検討を進めていただいている。

本日は、少子化が進むなか、子どもたちにとってより良い学校の在り方としてどうあるべきか、よりよい教育・保育環境の構築と質の高い教育・保育の実現に向けてどうあるべきか 等について、委員の皆さまからのご意見をお聞きし、本市として、あるべき学校・園の適正規模・適正配置を考えていきたいので、よろしくお願いします。

3 意見交換

テーマ:「学校・園の再編について」

行政説明 学校の適正規模・適正配置の基本方針の策定について

(教育改革推進室 成田)

- ・こどもを取り巻く状況
- ・現在の学校再編に関する方針【国】
- ・現在の学校再編に関する方針【長浜市】
- ・将来を見通した方針の必要性
- ・基本方針の位置づけ
- ・基本方針の期間
- ・検討体制
- ・スケジュール

委員 これまでの検討委員会での意見はどのようなものか。

事務局 会議は3回開催。小規模の校園の視察等を行った。PTAの役割等について質問もあった。

委員 市内で先行的にいくつかの学校が統廃合している。小中連携もある。現行の良さ、成果、または課題を聞かせてほしい。

事務局 統合後にアンケート調査を行った。それによると友達が増えた。学校が楽しくなったとある。また、保護者同士のつながりができたとの意見もあった。義務教育学校は9年間あり、縦のつながりの良さや上級生の優しさが見える。

委員 統合すると切磋琢磨により学力が上がるとの意見があるが、そういうメリットはあるのか。

事務局 数値的な部分で学力の数値は持っていない。集団が大きくなることによる共同的な学びは深まっている。

市長 先生へのアンケートはないのか。学力の面は数字だけでは表せない。先生の実感を知っておくと良い。先生の生の声を教えてほしい。

事務局 教職員向けのアンケートを確認したところ、「社会性やコミュニケーション能力が高まっていると実感している」「少人数指導、習熟度別指導など多様な指導ができています」「生徒指導でもプラス面が出ている」との声がある。マイナス面とし

て、自立心や自主性について心配しているとの声がある。

委員 木之本小が杉野小と一緒にになった。現在、高時小と伊香具小が再編の対象となっているが、令和2年の時に合併議論は出なかったのかを聞きたい。合併自体の規模を見据えてするべきではなかったのか。また、合併をやってみてどうか、分析をもっと細かく、追いかけてしていかないと。成績のことは答えにくいかもしれないが学力の問題もある。もっと細かく煮詰めていかないと、ぼんやりした議論が続くことになる。少子化がどうして進んでいるのかも「全国的に」というとぼんやりする。先日の部活動の地域移行についての議論の時にも感じたが、データを出してもらった上で議論すべき。データがあると細かな精度の高い話ができる。

事務局 高時小は現在協議をしている途中。R2年から対象地域でPTAと意見交換をしている。保護者の思いが統合に固まったら、次のステップにいく。杉野小は、杉野小の思いが固まったのでR2年に合併を実施した。

事務局 データについて徹底できていない部分があるので、確認したうえで報告できればと思っている。今後、検討委員会も開催するので、様々なデータを示していきたい。

委員 虎姫学園の再編はどのような経過で行われたのか。学童数減少による統合なのか、地域性のものなのか。小中となった経緯を教えてほしい。横の小学校同士の統合とならなかったのはなぜか？

事務局 平成27年に長浜の未来の学校づくりという会議を開催している。ここで小中一貫教育でやっといこうと決まった。余呉、虎姫、西浅井の3地域を対象として一貫教育を検討し、地域の同意を得られたので、余呉がH30、虎姫がR2に実施となっている。

委員 エビデンスが今日の資料では少ない。あるべき学校の姿とは何かを資料にのせるべき。長浜市の方針は生徒数が減ったから統合すると書いてあるだけ。子どもたちが学ぶにあたり適正規模はこうだから統合する。これが統合に至る経緯である。そういった流れを訴えかけないと保護者の理解も得られない。学校は近くにあるにこしたことはない。考えを固め、あるべき学級数を話し合わないともとまらないと心配する。

委員 同感。たくさん学校をみたが集団は必要と感じた。1学年1学級で人数も少ないと新たな人間関係の構築に向けた学びが難しい。少人数のいいところ、そうでもないところがあるが、市としてこういったことを目指すので、この規模が最適といったものがないと難しい。私たちもこれくらいの学級数が理想的というのはあるが、好きなことを喋っているだけの会議になるともったいないと思う。裏付けがあると説得力がある。

委員 統合するメリットについて、学力が上がる、部活が増えて体力の向上、切磋琢磨

磨して向上心がつく。クラスが複数あると社会性が身につく。小中一貫の中で特別なカリキュラムをつくる。など、そろそろ総括すべき。学力向上や人間関係などに寄与しているか。固定化された 10 人程度の集団より多い方が効果があるといったデータの共有が必要。

事務局 データ分析がないままでの議論は難しいということは感じている。今後、データを集約した上で議論が進められるように努めていきたい。小中一貫教育は開校してから生徒へのアンケートを取っているが、虎姫学園が5年目で、余呉小中学校は7年目で、入学した生徒が後期課程に入る。追跡して、各課が持っているデータも併せて分析していきたい。

事務局 学力調査の結果が出たが、夢や目標を持っているかという問いに対して小学生は 79.3%で少しずつあがっている。中学生はほぼ一定。こども若者計画策定の準備を進めているが、本内容も反映させていければと思う。

事務局 進め方として反省すべきところはある。一定の集団規模が望ましいとの位置からスタートしている。本市の統合の進め方は、地域の意見を受けて進めている。事務局から提示したわけではない。塩津小・永原小の統合を進めたが、統合することの良さを具体的なデータで示せると良かった。保護者が子どもの学びの状況を見て、より良い生活を送れないというところから始まっている。

事務局 保護者が生徒数の少なさから学区をかえるために引っ越しするなどの事例もある。いじめの問題もある。これは複数クラスだと対処できる。人間関係を考えるとある程度の規模がないと対応もできない。成績の部分については分析ができていないが、合併したから成績が落ちたなどという保護者からのクレームは今のところない。しかし、再編の前後で活用できるデータがないということも事実。今後、データを取得し、分析に努めたい。もう一つの問題として、大きな学校であっても小さな学校であっても先生のやることは変わらない。小さな学校は先生の人数が少なく一人の負担が大きい。このあたりの解消も統合のメリットであると思う。

委員 統合したからといって学力が上がることはないと思う。友達が増えて情報源は広がり、知識の幅は広がると思うが。学力の深さは変わらない。

事務局 複式学級を一つの判断基準としているが、なんらかのアプローチがかけられるといいと思う。意見をいただきながら保護者や地域へ情報提供・アプローチをしていきたい。

塩津小、永原小について補足。「伊香郡の小学校の統合が続くが、ビジョンを見せてほしい。」との意見を地域からいただいている。通学に関してもそう。通学路をどうするのか、通学時間がどの程度かかるか等がある。そういったところも意見いただければと思う。

委員 南小学校はバス通学をしている。1台借りるのに年間の予算はいくらか？永原

から塩津に通うのもバスで行くと思う。永原から伊香具、木之本までバスで30分
かからないくらいで通えなくもない。教育的観点が一番大事だが費用面を確認し
たい。

事務局 3年間で95百万円。1年間で約3千万円。

委員 県内の養護学校はバス通学で広域。以前は1時間半くらい乗っている生徒もい
た。バスの入札で慣れない業者に代わってしまうこともあった。旧町内で統合し
ても、すぐに生徒が減ると旧町域を超えた統合になるかもしれない。その際はバ
スが重要。旧町間を跨ぐ合併はすごく抵抗があると思う。統合すると大きなメリ
ットがないと説得力がない。旧伊香郡は1つになる可能性は否定できない。説得
力のある材料を作る必要があると感じた。

委員 湖北に住んでいるが以前は北からの転居が多かった。子どもの同級生がいな
いから、雪が多いからなどの理由を聞いた。旧町を跨いで統合は抵抗があるとい
うが旧町を超えての引っ越しがある。最近では湖北から出ていく人も多い。さら
に南に流れていく。これらのことからもっと広い視野で学校の統合を考えないと
いけないと思う。湖北も3つ小学校があるが単級のクラスが増えている。将来を
見据えてもっとおもいきった統合も必要ではないかと感じている。旧町にこだわ
っている場合ではない。

事務局 既存の学校ありきで統廃合をするわけではなく、あらたな学校を創るイメージ
で学校を創ると思っている。旧市町の枠を超えて、郡を超えてという形も考えた
い。もちろん、登下校にかかる時間、災害が起きにくい場所等は考慮する必要が
ある。

委員 学校は地域のシンボル。こういった街を創っていくのかに直結する話かと思
う。通う学校が遠くてもバスがあれば通える。現状というより今後のビジョンが
示されないと人口流出につながってしまう。再編にあたっては、いち早く学校の
位置や方針を示さなければならない。小規模学校ならではの、特に縦割りの良さ
というものもある。昔と今も違うので、先を見通したビジョンを示すべき。保護者は
自分の学校しか知らない。教育委員に就任し各校を視察したなかで大規模校の
良さを感じた。保護者は自分の子どもが行っている学校しか知らない。他の学校
の状態を知るとどうなるか。意見を求める際にはそういった部分が大事。

委員 1クラスの良さもあるが、クラスは2クラス以上がいい。教師のことを考えると
授業の研鑽もつめる。参考にする先生が同じ学年にいないし、相談する先生もい
ないのはつらい。小規模校は、授業の研鑽を積む機会が少ない。他クラスの授業
を見て学ぶこともできない。学級崩壊の兆しがあっても他の先生が見られないの
で、気づいた時には大変なことになることが多い。せめて2クラスにできると、特
に若い先生はやり易いと思う。先生の働く環境も再編にあたっては考えていくべ
きである。

教 育 長 市全体でどういうまちにするのかの視点ははずせない。学校は地域のシンボルである。統合によりそのシンボルがなくなることに対する喪失感はある。先生の育成はどうするか。相反する中でどうバランスをとるか。行政主導で数字を示して統合した市町はうまくいってない。だからこそ地域の声を聞くことは大切。10年後の姿を思い浮かべて、学校再編を考えることが大切。

市 長 再編については、最後は文科省の方針になると思う。コミュニケーション能力、大規模校ならではの活力、先生の働き方改革。そういったものを総合すると文科省の方針として一定の集団規模の確保が望ましいとなると思う。学校の特性を踏まえて一定の規模にするのが望ましいというところに回帰する。再編の議論を進めるにあたっては、教育委員会事務局において論点をしっかりと整理する必要がある。都市計画として、どこにまちの中心を誘導するか。誘導しない地域を放っておいてはよくない。中核的な地域を作るべきでマスタープランを改定している。地元を愛する人がいて、そこで暮らせるにはどういう地域にしていくなか、マスタープランで中心地域でない部分でどういう街づくりをするか。その姿を考えると10年後20年後が予想できるかと言えば難しいが、国が示しているコンパクトシティの考えのもと、インフラ整備を投資していく地域と、そうでない地域はDXを活用しながら進めていく。この場でも紹介しながら、議論してもらえればと思っている。いろいろとあるが国の方針なども注視し、教育の姿、学校の姿を考えていきたい。

教 育 長 市の姿をしっかりにらみながら、学校の在り方を考えた。新しい気づきがあったので、しっかり活かしていきたい。エビデンスでいうと教員の数。複式学級になると教員は3人、教頭なし、事務員もいない。これで学校が運営できるかというところではないので、学校運営に支障が出ないようにしたい。DXなど活用していい形の統合を進めたい。引き続き教育委員会でも議論を進めたい。より良い形をめざしたい。今後ともよろしくお願いします。

4 その他

事 務 局 第2回会議は令和7年2月頃開催予定。後日日程調整を行う。

5 閉会

以上